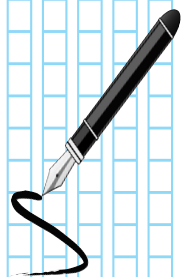


町長エッセイ



悲惨さを知り伝える

早朝から夏の日差しが照りつけた8月5日午前8時、役場庁舎前広場に、町内の中学2年生8人が顔を揃えました。広島平和記念式典に参加する出発式です。

小川町では、平和推進事業の一環として、原爆死没者を慰霊するとともに、風化しつつある戦争の悲惨さを知り、平和の尊さを次の世代に伝えていく取組みを続けてきました。毎年、広島に原爆が投下された8月6日に行われる広島平和記念式典に、町内の中学2年生を派遣しています。

今年も東中から4人、西中2人、櫛台中2人が広島に向かいました。

終戦から69年。生徒の親世代の皆さんも、平和で豊かな時代に育った方々です。戦争を語り継ぐことがますます困難になりつつあるなかで、生徒が広島で見たり聞いたりしたこと、そして感じた原爆の恐ろしさは、感想文にまとめられて、図書館で開催された「サダコと折り鶴ポスター展」に展示されました。「百聞は一見にしかず」と言います。中学生が現地へ行き、若い感性で経験したことを伝えようとしています。今年はいいにく雨の中での式典となったようですが、原爆死没者の慰霊や平和の尊さを学び次世代への継承を願いながら、8月6日午後7時には役場庁舎前で全員そろって解散式を行いました。